

# 中学校家庭科における主体的な消費者の育成

赤塚 朋子・門澤 裕美・京谷 千恵・小宮 和恵

宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要 第10号 別刷

2023年8月31日



# 中学校家庭科における主体的な消費者の育成<sup>†</sup>

赤塚 朋子\*・門澤 裕美\*\*・京谷 千恵\*\*\*・小宮 和恵\*\*\*\*

宇都宮大学共同教育学部\*

佐野市立あそ野学園義務教育学校\*\*

佐野市立城東中学校\*\*\*

佐野市立南中学校\*\*\*\*

消費生活のデジタル化やキャッシュレス化が進展するなか、今回の学習指導要領の改訂では自立した消費者を育成するために、消費者教育に関する内容の一層の充実が図られた。これまで同様、持続可能な社会の担い手を前提として、中学校家庭科における「C 消費生活・環境」領域の教材開発を目的とした。自分の消費行動を振り返り、課題解決を図りながら主体的な消費行動を導く学びのプロセスに焦点を合わせているところに特徴がある。ダイヤモンドランキングやロイロノートの活用などにより、思考の柔軟性や自分の考えを深める姿が見られ、経済社会に影響をもつ消費者の素地の育成にもつながると考えた。

キーワード：中学校 家庭科 主体的な消費者

## 1. はじめに

今回の学習指導要領の改訂により、中学校技術・家庭科（家庭分野）の領域構成は、小学校との系統性が図られ、小・中学校ともに「A家族・家庭生活」, 「B衣食住の生活」, 「C消費生活・環境」の三つの内容となっている。

「C消費生活・環境」においては、社会の変化に対応した見直しから「持続可能な社会の構築に対応して、計画的な金銭管理、消費者被害への対応について扱うとともに、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎となる内容を扱うこと」（「学習指導要領」p.68）としている。特に、消費生活に

関しては、自立した消費者を育成するために、消費者教育に関する内容の一層の充実を図っている。

消費者教育推進会議（消費者庁）では、現在「消費者教育の推進に関する基本的な方針」の変更が議論されている（第34回消費者教育推進会議、2023年2月27日）。このなかで「消費者を取り巻く現状と課題」のひとつに「デジタル化の進展（商品取引・サービス利用形態、情報取得・発信の変化等）」があげられている（資料1-1）。

消費生活におけるデジタル化については、「社会のデジタル化に対応した消費者教育に関する分科会取りまとめ」（消費者庁、2021年5月）がある。消費者による情報の入手及び発信並びに商品取引及びサービス利用の過程において、デジタルデータを用いる比重が高まっていることが指摘されている。また日々の消費生活の中の行動（買物、コミュニケーション、娯楽等）について、デジタル機器等を介した行動の比重が高まっている。

中学生の消費生活の実際についても、生徒たちの状況（2021年）から確認できる。商品の情報を知る方法の71%が「インターネット」（2018年は32%）であり、「インターネット通販の経験」では「ある」と61%が回答している。

<sup>†</sup> Tomoko AKATSUKA\*, Hiromi KADOSAWA\*\*,  
Chie KYOUYA\*\*\* and Kazue KOMIYA\*\*\*\*:  
Developing Proactive Consumers in Junior  
High School Home Economics Education  
Keywords: junior high school, home  
economics education, proactive consumer

\* Cooperative Faculty of Education, Utsunomiya  
University

\*\* Asono Gakuen Compulsory Education School

\*\*\* Sano Joto Junior High School

\*\*\*\* Sano Minami Junior High School

（連絡先: akatsuka@cc.utsunomiya-u.ac.jp）

「デジタル広告分野の取引実態に関する最終報告書」(公正取引委員会、2021年2月) デジタル化に対応して必要と考えられる知識・能力の基本的整理がされていて「①情報と技術の活用能力・仕組みやリスクの理解 ②情報を鵜呑みにしない批判的思考力 ③情報モラル ④個人情報管理 ⑤知的財産保護」となっている。インターネットの普及やキャッシュレス化の進行による消費生活におけるデジタル化に対応する知識・能力の必要も相まって、家庭科における学びが求められていることがわかる。

そこで、本稿では、消費生活のデジタル化やキャッシュレス化が進展するなか、持続可能な社会の担い手を前提として、中学校家庭科における「C 消費生活・環境」領域の教材開発を目的とした。

## 2. 主体的な消費者とは

消費行動は選択するという消費者の権利が最も発揮される場面である。中学校家庭科の学びのなかで、商品購入のプロセスがあるが、商品を選択するという行動は、消費がもつ影響力の理解、消費者の社会への参画・協働、持続可能な消費の実践につながっている。商品を購入して消費するという行動は、現在の経済社会の消費生活のしくみとして存在している。どのような生活がしたいのか、そのためにどのような消費行動を選択するのか、自分で決めて行動しなければならない。自分で決めて、その結果を自分で責任を持つことが主体的な意味だとすると、主体的な消費者とは、自分の消費行動を自分で選択し、自分でその行動の責任を持つことになる。

どのような消費行動をどう選択し、どう責任をとるのか。この消費者としての力を身に付けるための基本的な学びが商品購入のプロセスととらえることができる。このプロセスの経験の繰り返し、人生における選択の際に役立つはずである。

## 3. 主体的な消費者の育成に向けて

### (1) 中学校家庭科の学習目標

今回の学習指導要領では、中学校技術・家庭科(家庭分野)の目標は、次のとおりである。

「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・

家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。」

「よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力」の育成が目指され、「生活の自立」、「課題を解決する力」、「生活を工夫し創造しようとする実践的な態度」を「実践的・体験的な活動を通して」育むのである。目標とする力を身に付けるためには、どう定着するかは課題があり、現行の授業時間数では足りないのが実情である。

### (2) 中学校家庭科の学習内容

表1は、中学校家庭科の学習内容の項目である。

表1 中学校家庭科の学習内容

領域	学習内容	
A 家族・家庭生活	(1) 自分の成長と家族・家庭生活 (2) 幼児の生活と家族 (3) 家族・家庭や地域との関わり (4) 家族・家庭生活についての課題と実践	
B 衣食住の生活	食生活	(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴 (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事 (3) 日常食の調理と地域の食文化
	衣生活	(4) 衣服の選択と手入れ (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作
	住生活	(6) 住居の機能と安全な住まい方
	衣食住生活	(7) 衣食住の生活についての課題と実践
C 消費生活・環境	(1) 金銭の管理と購入 (2) 消費者の権利と責任 (3) 消費生活・環境についての課題と実践	

出典: 文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 技術・家庭編」

本稿で取り上げる「C 消費生活・環境」領域は、A領域やB領域との関連を図り、題材設定することが求められている。また「生徒の身近な生活との関わりや社会とのつながりを重視したもので、自己の生活の向上とともに家庭や地域社会における実践に結び付けること」や「持続可能な開発のための教育を推進する視点から、関係する教科等のそれぞれの

特質を踏まえて連携を図ること」とされている。このことからわかるように、C領域は、中学校での学びを集大成した生活の自立の力を培う位置付けにあるとも考えられる。その意味では、人生を想定した学びとも位置付けることができ、消費者市民社会の担い手、持続可能な社会の担い手に直接関係する学習内容を意識した題材設定が可能である。

#### 4. 「C 消費生活・環境」領域の教材開発

##### (1) リュックを題材として

生徒の身近な生活に関連した題材を取り上げるために、何を題材として取り上げるかがポイントになる。そこで、日頃の生徒たちの様子を探るために先のアンケート調査を行った結果が大切となる。

図1は、インターネット通販で購入している商品の結果である。衣類・靴・バッグといった日常生活で使用しているものが上位にあがったので、リュックを取り上げることとした。

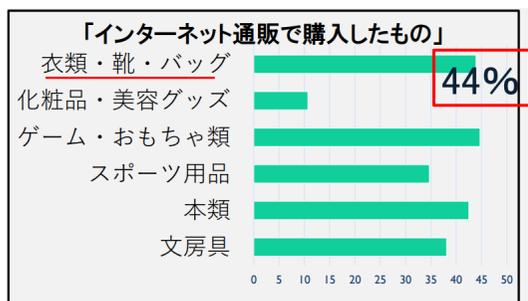


図1 インターネット通販で購入したもの

リュックは、生徒たち自身が選択し、活用することが多い。自分事として考えやすく、生活に生かしやすいのではないだろうか。主体的な消費者の育成という目標に適した題材であると考えた。

インターネットからの情報収集のシミュレーション教材を技術分野の教員の協力のもとに作成して、自分が主体となって、どのようなリュックの購入を希望しているのかを明確にするための準備を行った。

この教材開発を始めた当時は、まだインターネットによる情報収集は3割程度であったため、シミュレーション教材の開発は急務であった。その後、デジタル化の進展とともに、文部科学省によるGIGAスクール構想の推進により、1人1台端末が整備され、授業形態の変化にまで影響を与えることとなっている。

GIGAスクール構想は、「1人1台端末は令和の学びの『スタンダード』」をキャッチフレーズとして、「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現へ」(リーフレット)としてきた。

現在では、1人1台端末を利用して、リュックの情報収集が容易にできるようになっている。

##### (2) 題材の指導計画

題材は11時間扱いとした。

表2は指導計画である。

研究の始めでは、購入のプロセスの全てに関連し、生徒の興味があるものという条件にかなう生徒の身近な商品とは何かを決めることに時間がかかった。

##### (3) 題材の設定理由

インターネットの普及とキャッシュレス化の進行に伴い、消費者被害の低年齢化が問題となっており、子どもたちが消費者トラブルの被害に合わないよう適切な対応が求められている。また、学習指導要領では、クレジットカードは三者間契約であることや金銭の計画的な管理についての内容を取り扱うことが新設された。子どもたちが契約についての理解を深め、消費者の権利と責任を全うできるような力を身に付けることが必要である。

子どもたちはこれからの社会の担い手として、主体的な消費生活が送れるよう本題材の学習を通して力をつけさせたい。また、消費生活・環境の分野の学習を家族・家庭、衣・食・住のどの分野とも関連を持たせて授業を行い、商品選択の場面を取り入れ、主体的な消費行動が行えるよう生徒の消費者としての意識を高めていきたいと考えた。

生徒の実態は、普段の生活の中でパソコンやスマートフォンを使ってインターネットを利用している生徒が多く見られるようになってきており、アンケートを取った中学生の6割の生徒がインターネット通販を利用したことがあると回答している。

さらに、キャッシュレス化が進んだことやポイントカード等のカードも普及したことで、様々な支払い方法を体験している生徒もいる。そのため、カードも金銭であることやカードを作るときに個人情報を提供していることをきちんと理解させたい。そのような状況を踏まえて、金銭の管理についてしっかり考える機会を設けたり、インターネット通販や新しい消費者トラブルについて理解し、適切な対応を

表2 指導計画

時間	小題材名	具体的評価規準「おおむね満足できる」状況 ◇評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	態度
1	自分の消費生活を考えよう		・自分の消費生活について振り返り、問題を見いだし課題を設定している。 ◇ワークシート	
2・3	リュックがほしい!どのように購入するかを考えよう	・購入方法や支払い方法の特徴について理解している。 ◇ワークシート ・計画的な金銭管理の必要性や売買契約の仕組みについて理解している。 ◇ワークシート		①金銭の管理と購入, 消費者の権利と責任について, 課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ◇ワークシート
4～6	インターネット通販でリュックの購入を考えよう	・消費者の基本的な権利と責任について理解している。 ◇ワークシート ・インターネット通販での購入場面を通して, バッグの選択や購入に必要な情報の収集・整理についてや消費者被害の背景とその対応について理解しているとともに, 情報の収集・整理が適切にできる。 ◇ワークシート	①リュックをインターネット通販で購入する場面を通して, 自分の消費生活について, 問題を見い出して課題を設定している。 ◇ワークシート ②収集, 整理した情報を活用して, バッグの選択, 購入計画を考え, 工夫している。 ◇ワークシート, 行動観察	
7	④環境にやさしい買い物とはどのようなものかを考えよう	・自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。 ◇ワークシート		②金銭の管理と購入, 消費者の権利と責任について, 課題解決に向けた, 一連の活動を振り返って, 改善しようとしている。 ◇ワークシート
8(本時)～9	⑤自分で使っているリュックを検証しよう		③自分で使っているリュックの検証を通して, 通学用リュックの購入を計画について, 評価したり, 改善したりしている。 ◇ワークシート, 行動観察	
10・11	⑥生活に役立つものの購入を考えよう		④自分の生活や家族の生活を振り返り, 自立した消費者としての消費行動についての課題解決に向けた一連の活動について, 考察したことを論理的に表現している。 ◇行動観察, ワークシート	③よりよい消費生活の実現に向けて, 金銭の管理と購入, 消費者の権利と責任について工夫し創造し, 実践しようとしている。 ◇ワークシート

考える時間を設けたりすることで, 主体的な消費行動ができるようにしたい。また, 商品選択のための情報収集の方法や正しい情報を取捨選択できる等, 適切な判断ができるような力を身に付けさせたい。

(4) 本時の指導 (8 / 11時間)

1) 小題材名「リュックの検証をしよう」

2) 目標

通学で使用しているリュックを選択した時に, 情報の収集・整理を適切に行うことができているかどうか検証をすることを通して, 購入計画を評価したり, 改善したりしている。【思考力、判断力、表現力等】

### 3) 展開

学習の流れ	時間	教師の支援（指導上の留意点）	教材・教具									
前時の確認	1	・前時までの振り返りをする。										
学習課題の提示	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           学習課題            自分で使っているリュックの検証をしよう         </div>										
検証手順の確認	3	・検証するための手順を確認する。 ①以前考えたダイヤモンドランキングから検証表の購入ポイントを記入させる。 ②良い点や問題点等の書き方の確認。	ワークシート									
リュックの検証	15	・自分のリュックを確認しながら検証をさせる。 ・検証から気づいたこと、次に生かしたいことを記入させる。	自分のリュック ワークシート									
検証結果の発表の手順確認	2	・検証結果をグループで発表させる。発表時間は1人2分間以内とし、タイムキーパーを教員が行い、全体で一斉に発表を進めていく。										
検証結果発表	9	・改善の理由を明確にして、発表させる。発表が不安な生徒には、発表シートを活用させる。 ・友達の発表で参考になったことをメモに取りながら聞かせる。	発表シート									
ダイヤモンドランキング作成の手順	2	・検証の結果、理想的なリュックの購入にはどのような購入ポイントが大切なのか、ダイヤモンドランキングを作成させる。	一人一台端末									
ダイヤモンドランキングの作成	10	・本時で作成したものと以前作成したものを比較させる。 【思考・判断・表現】	ワークシート									
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>予想される生徒の様子</th> <th>目標達成のために手立て</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">十分満足</td> <td>自分が使用しているリュックの検証を通して、社会に与える影響や環境への配慮を考えて、具体的にリュックの購入計画を考えている。</td> <td>・購入ポイントやSDGSを振り返り、商品購入にどんな情報が必要なのかを考えさせる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">おおむね満足</td> <td>・使用しているリュックの検証を通して、理想的なリュック購入のためにはどのような商品選択のポイントが大切なのかを考えている。</td> <td>・自分が使用しているリュックをよく見ることを通して、購入する時に必要な情報を選択できていたかを考えさせる。</td> </tr> </tbody> </table>		予想される生徒の様子	目標達成のために手立て	十分満足	自分が使用しているリュックの検証を通して、社会に与える影響や環境への配慮を考えて、具体的にリュックの購入計画を考えている。	・購入ポイントやSDGSを振り返り、商品購入にどんな情報が必要なのかを考えさせる。	おおむね満足	・使用しているリュックの検証を通して、理想的なリュック購入のためにはどのような商品選択のポイントが大切なのかを考えている。	・自分が使用しているリュックをよく見ることを通して、購入する時に必要な情報を選択できていたかを考えさせる。	
	予想される生徒の様子	目標達成のために手立て										
十分満足	自分が使用しているリュックの検証を通して、社会に与える影響や環境への配慮を考えて、具体的にリュックの購入計画を考えている。	・購入ポイントやSDGSを振り返り、商品購入にどんな情報が必要なのかを考えさせる。										
おおむね満足	・使用しているリュックの検証を通して、理想的なリュック購入のためにはどのような商品選択のポイントが大切なのかを考えている。	・自分が使用しているリュックをよく見ることを通して、購入する時に必要な情報を選択できていたかを考えさせる。										
発表ワークシート観察												
振り返り	5	・学習の振り返りをさせる。 ・次時は、購入計画立てることを伝える。	ワークシート									
学習のまとめ	2											

#### 4) 指導方針

商品選択をした時に、情報の収集・整理を適切に行うことができているかどうか、使用しているリュックの検証を通して、よりよい購入計画が立てられるよう評価、改善をし、主体的に問題の解決ができる生徒の育成を目指したい。

#### (5) 授業提案のポイント

1) 身近な学習課題の題材の設定⇒生徒の実態⇒リュックを取り上げた。

2) 現在使用しているリュックの検証⇒購入計画が現実味を増し、主体的な消費行動を導く。

3) ダイヤモンドランキングの活用⇒選択肢をいろいろな角度から見ることで、思考の柔軟性を育てる。ダイヤモンドランキングは、複数の物事を比較し、順序づけることができる思考ツールの一つである。上にあるものほど、優先順位が上になるように設定されていて、物事の順序づけがスムーズに行えるメリットがある。

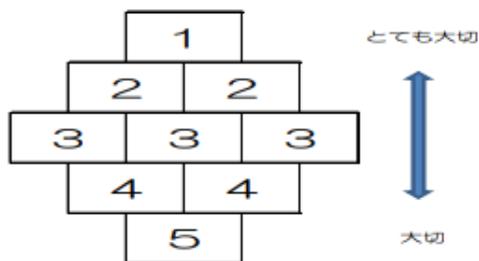


図2 ダイヤモンドランキングの例

出典: 12【授業例】(中) ダイヤモンドランキング (hyogo-c.ed.jp)

今回は、リュックの選択の際に、自分が大切にしたいことを理由とともに明らかにすることを意図して利用している。次回の購入計画につなげ、主体的に選択する経験の支援になっている。

4) ロイロノートの活用⇒他の生徒と比較しながら自分の考えを深めることができる。

「ロイロノート・スクール」とは授業支援クラウドシステムで、一人一端末の活用により、教員と生徒の双方向でのデータの共有ができ、データの比較や意見交換ができる。今回は、各自のダイヤモンドランキングを共有することで、選択理由の明確化に寄与している。

5) 主体的で自立した消費者になるためのステップがわかりやすい。

自分の消費行動を振り返り、問題を見出して課題

を設定し、身に付けた知識・技能を生かしながら課題を解決をする力を育成することが必要である。



自分の消費行動を振り返り、問題を見出して課題を設定する時間を大切にしたいと考えた。

基礎的・基本的知識・技能を身に付けるためには、その力の定着のために、繰り返し学ぶ時間を確保することが重要となる。

しかし、先にも述べたとおり、中学校技術・家庭科の授業時間は、1年生で70時間、2年生で70時間、3年生で35時間である。技術分野と家庭分野で2等分のため、実質、1年で35時間、2年で35時間、3年で17.5時間である。週に1時間、3年生になると2週に1時間が現状である。さらに、学校により技術分野と家庭分野の時間配分が裁量に任されていることと、学校の事情が反映され、必ずしも週に1時間が確保されているとは限らない。最も課題となっているのは教員配置である。技術分野と家庭分野の両方が正規で配置されている中学校は規模が大きい学校のみで、非常勤講師や免許外の臨免教員が多く担っている。技術分野も家庭分野も、学習内容は多く、領域も多岐にわたっているため、正規で配置されない課題とともに、臨免で担当している教員の負担は計り知れず、早急な解決は喫緊である。

上記の状況のなかで、わかりやすい学びのステップは、生徒にも、担当する教員にも有意義である。

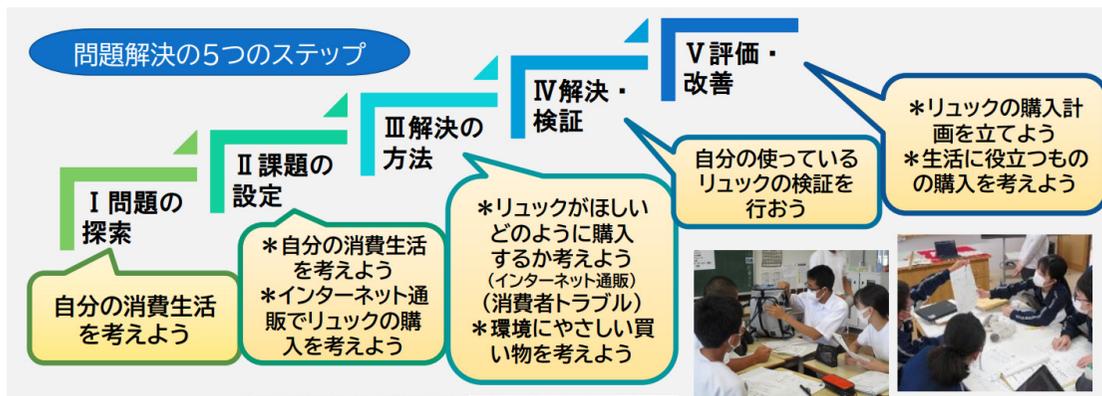


図3 学びのステップ

実際に自分が使用しているリュックを目の前にして、今度購入するリュックの選択理由についてワークシートに記述している例が図5である。

機能性や安全性といった漠然とした理由ではな

く、使うことになった時の理由が主体的に記述されていることがわかる。

また、「もっと知りたいこと」が主体的な行動を導くこととなった。



検討の項目	決めた内容	それに決めた理由、そうしようと思ったポイント
安全性	JANSPORT	あの前からこのブランドが有名だと思ってる。あと、ポイントが安いと評判で、安全な商品だと思ってる。
大きさ	94L	94Lだと軽くて女子に人気がある。
使い心地・安全	持ち手が丈夫で使い心地が良いもの	丈夫で、自分の肩に合ってる。
重さ	軽い	軽いのと丈夫で、自分の背に合ってる。
価格	¥9,800	予算以内で、とてもいいから。
アフターサービス	◎	無償修理、交換できるから。保証期間も長くて、安心。
環境への配慮 購入・廃棄時の環境への負荷	◎	100%リサイクル素材。3種の素材の組み合わせで、水のリサイクルもできる。

図5 ワークシートの例

## 5. 研究の成果と課題

持続可能な社会の担い手として、今後の人生における意思決定のプロセスを想定して実践する力を育成することが必要とすると、消費行動における購入のプロセスを繰り返すことで、意思決定の体験を大切にできるのではないだろうか。

人生は選択の連続である。消費行動の選択のプロセスとの類似を利用して、主体的な消費者としての力を身に付ける学びを意識したい。

研究の成果としては、購入前に主体的に情報収集するようになった主体的な行動が増している。

生徒たちは、具体的に物資・サービスの選択に必要な情報を活用して、自分なりの購入計画を立てることができるようになった。また、理由を明確に考え、主体的によりよい購入計画を考えようとする姿が見られた。事後のアンケートで、「買い物をする前に情報を集めているか」と聞いた質問では、「いつも当てはまる」・「だいたい当てはまる」と回答した生徒が合わせて67.3%見られ、事前の55%より主体的に情報を収集しようとする姿が見られた。

今後に向けての課題は、リュックの購入計画の作成の体験を、異なる商品の購入でも可能なように、実際の日常生活の消費行動に生かせる力につなげてほしい。

持続可能な社会の担い手であり、経済社会に影響をもつ消費者であるという消費者の素地を意識した授業を今後も展開していきたい。

## おわりに

本稿は、栃木県中学校技術・家庭科研究会佐野地区の関東ブロック大会発表を意識した研究過程のな

検討の項目	決めた内容	それに決めた理由、そうしようと思ったポイント
安全性	生地が柔らかくて使いやすい	生地が柔らかくて使いやすい。重いものを背負っても大丈夫。
機能性	リュックの容量が大きい	リュックの容量が大きい。必要なものをたくさん入れられる。
重さ	軽い	軽いのと丈夫で、自分の背に合ってる。
使い心地・安全	持ち手が丈夫で使い心地が良いもの	丈夫で、自分の肩に合ってる。
重さ	軽い	軽いのと丈夫で、自分の背に合ってる。
素材	木製や革製のリュック	木製や革製のリュックは、環境に優しい。
アフターサービス	返品可能	ダメなものは返品可能。安心。
環境への配慮 購入・廃棄時の環境への負荷	リサイクル素材	リサイクル素材は、環境に優しい。

かから「主体的な消費者の育成」をテーマにまとめたものである。

生徒にどのような力をつけたいのか、そのためにどのような授業をしたらいいのか。予測不可能な時代において、持続可能な社会の担い手として期待されている目の前の生徒たちである。家庭科はよりよい生活を創造し実践する力を身につける教科である。

研究期間のなかで、デジタル社会の進展とコロナ禍の状況が続き、新しい学習指導要領による教育が始まった。様々な変化を共有しながら研究を継続できたことに感謝したい。何より、家庭科の面白さと生徒たちへのエールを送り続ける家庭科教員との研究の面白さを今後につなげていきたい。

## 参考文献

- 1) 文部科学省 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編」
- 2) 「社会のデジタル化に対応した消費者教育に関する分科会取りまとめ」（消費者庁、2021年5月）
- 3) 「デジタル広告分野の取引実態に関する最終報告書」（公正取引委員会、2021年2月）
- 4) 文部科学省 「GIGAスクール構想」リーフレット

2023年3月31日 受理



# Developing Proactive Consumers in Junior High School Home Economics Education

Tomoko AKATSUKA, Hiromi KADOSAWA, Chie KYOUIYA and Kazue KOMIYA